



石巻港復興だより第20号

(石巻港湾ひばりの通信43号)
— 港湾は人の心も結んでいます —



大手埠頭から望む朝日

〔年頭あいさつ〕

あけましておめでとうございます。

昨年中は港湾行政の推進にご理解とご協力を頂きましたこと、改めて感謝申し上げます。

石巻管内の港湾施設の復旧・復興は順調に進捗しており、石巻港区におきましては、防潮堤の一部が完成の段階にあり、堤上にソーラスフェンスを設置している状況です。これにより国際港湾施設として海上運送システムの信頼性向上が図れることとなります。地方港においては、総事業費81億円となる女川湾口防波堤が昨年3月に完成し、同年6月には同防波堤が全国建設技術協会から「全建賞」を授与されました。また、雄勝港波板地区では防潮堤が完成し、住民生活の安全が確保されました。

貨物取扱量は、荷揚げの機能が確保され、震災による減少は、ほぼ回復しております。また、「ばしふいっくびいなす」などの大型客船や探査船が寄港するなど、幅広い港湾の利用が図られています。

今年、石巻港は開港50周年の節目を迎えます。

企業や住民の皆さまに、よりご活用いただくため、防潮堤を早期に完成させ、港湾地区で働く方々の生命と立地企業の財産を守る機能を拡充させ、港の安全と安心を確保してまいります。職員一丸となって復旧・復興に邁進し、港のさらなる発展へ取り組んでまいりますので、今後ともご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

〔掲載内容〕

- ・年頭あいさつ・・・・・・・・・・・・P1
- ・旅客船「ばしふいっくびいなす」入港・・・P2
- ・東水路南地区外の現場見学会を開催・・・P2
- ・港湾区域の保安体制を確認・・・・・・・・P3
- ・水上警備派出所新庁舎完成・・・・・・・・P3
- ・石巻港 復旧・復興工事(防潮堤)の状況・・・P4
- ・地方港の施工状況・・・・・・・・・・・・P5
- ・石巻港の貨物量の推移・・・・・・・・・・・・P6
- ・石巻港工業用地分譲中・・・・・・・・・・・・P6
- ・職場研修を実施・・・・・・・・・・・・P7
- ・災害査定受検・・・・・・・・・・・・P7
- ・新素材量産設備本格稼働・・・・・・・・・・・・P8
- ・新任職員の紹介・・・・・・・・・・・・P8

旅客船「ぱしふいっくびいなす」入港

■大型客船「ぱしふいっくびいなす」が入港しました

平成28年9月1日（木），大型客船「ぱしふいっくびいなす」（総トン数26,594t 全長183.4m）が，石巻港（大手埠頭）に入港しました。台風10号の影響により1日遅れの入港となりましたが，天候に恵まれた当日は，入港セレモニーと伊達武将隊による演舞披露が行われたほか，石巻港大型客船誘致協議会による歓迎式典が開催されました。また，会場イベントでは



，ホタテ貝焼きの無料提供のブースが設けられ，長蛇の列ができました。石巻市のイメージキャラクター「いしびよん」の他，9月に開催される全国和牛能力共進会宮城大会のマスコットキャラクター「牛政宗」等も登場し，会場を大いに盛り上げました。

東水路南地区外の現場研修会を開催

■「東水路南地区外防潮堤工事」現場研修会を実施しました

平成28年10月21日（金），石巻港区で施工する東水路南地区防潮堤工事の研修会を開催しました。

仙台塩釜港（石巻港区）石巻市潮見町地内の現場事務所にて工事概要，防潮堤上部コンクリートの作業手順，安全対策について施工業者である東洋建設株式会社より説明を受け，その後，現場に移動しました。



現場研修会では，座学のみでは学びとれない，現場ならではの細かな具体例を学習し，各企業との調整や，当初，想定していなかった事象などに対してどのように対応したかなど，生の意見を聞くことができ，貴重な体験となりました。

港湾区域の保安体制を確認

■保安総合訓練を実施しました

平成28年12月7日（水）、仙台塩釜港（石巻港区）保安総合訓練を実施しました。

この訓練は、SOLAS条約（「海上における人命の安全のための国際条約」）に基づく港湾における保安対策強化の一環として、テロ行為などに対処するため行われているもので、石巻港区での危機事案の発生に備え、関係機関相互の連携を図り、迅速かつ的確に対応できるよう、平成16年から実施しています。



今回は、石巻港区にテロリストが現れたとする想定で、関係者及び作業員に避難情報の周知を行う情報伝達訓練と、テロリストを追跡、拘束、搬送するまでの演習訓練を行いました。



実演に参加した機関：

- ・石巻海上保安署
- ・石巻警察署
- ・石巻地区広域行政事務組合消防本部
- ・宮城県石巻港湾事務所
- ・新総建設株式会社（操船者として）

水上警備派出所 新庁舎完成

■警備艇「金華山」の出動拠点が完成しました

平成28年12月13日（火）、潮見地区に石巻警察署水上警備派出所が、東日本大震災で被災した旧派出所と同じ場所に完成し、落成式が行われました。

同署は、警部補1名と技術職員4名が勤務し、密漁の取り締まりや離島の住民の困り事相談などに対



全長：23.98m 総トン数41トン



応するとのことです。

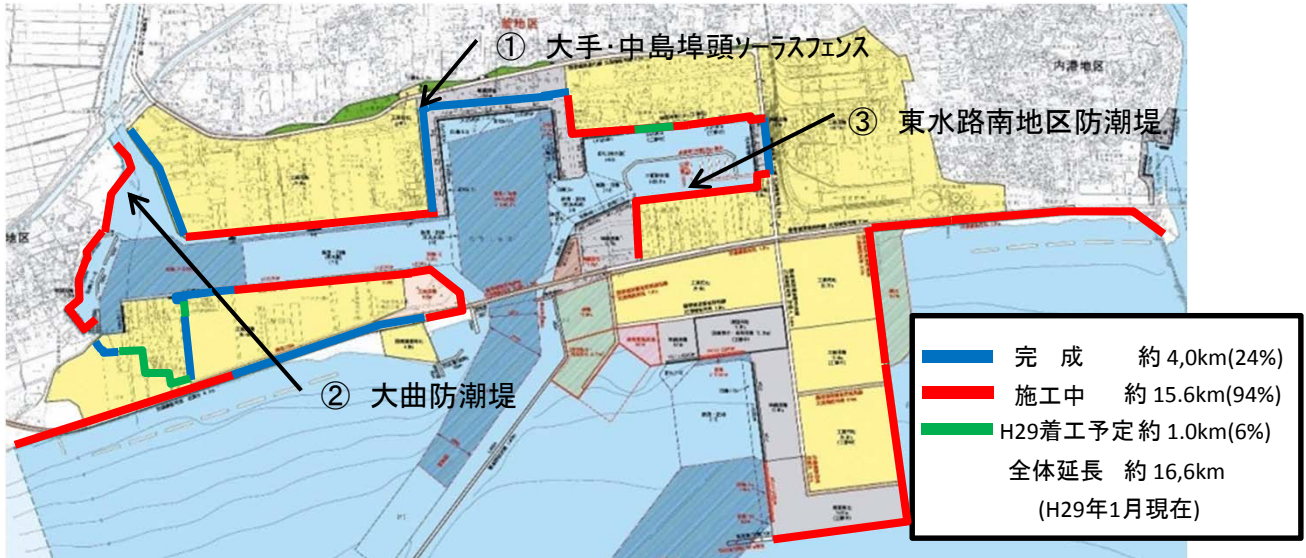
警備艇「金華山」を有する県内唯一の水上警備派出所の今後の活躍を祈念いたします。

石巻港 復旧・復興工事(防潮堤)の状況

石巻港内の防潮堤工事は、昨年度の着手以来、順調に進捗しております。

今後も、施工現場の安全確保を図りながら、石巻港内の復旧・復興を加速させていきます。

■石巻港区平面図

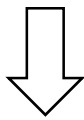


石巻港区の防潮堤工事等の施工状況は、次のとおりです。

①大手・中島埠頭ソーラスフェンス



(施工前)

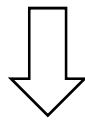


(現況)

②大曲防潮堤

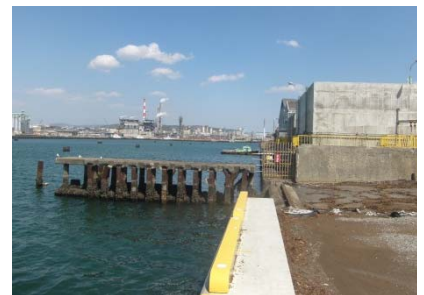


(施工前)

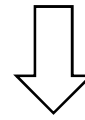


(現況)

③東水路南地区防潮堤



(施工前)



(現況)

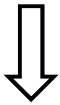
地方港の施工状況

平成28年12月末現在の復旧状況は、次のとおりです。

●大浜地区



(施工前)



(現況)

●伊勢畑地区



(施工前)



(現況)

●荻浜地区



(施工前)



(現況)

●小積地区



(施工前)

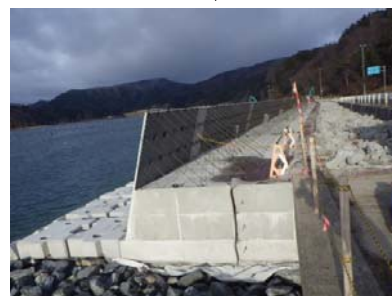


(現況)

●雄勝港小島



(施工前)

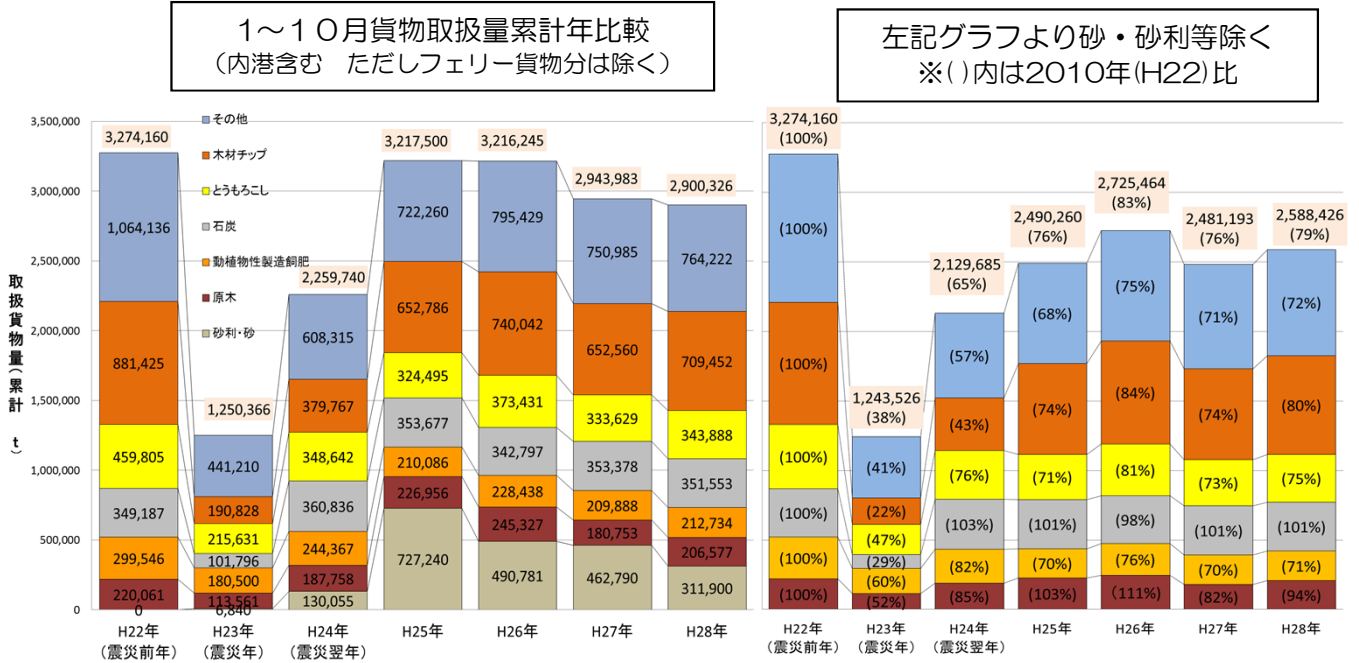


(現況)

石巻港の貨物量の推移

■ 1～10月累計比較 H22比約9割 H27年と同程度の推移

震災後、復興用資材等として砂・砂利等の取扱量が増えたことから、
 純粋な比較をするために、砂・砂利等を除いたものを右図に示してあります。
 石炭は震災翌年から毎年安定した取扱量が維持されています。



石巻港 工業用地分譲中

■ 工業用地は、現在3地区4区画にて分譲中です



□大曲地区			
区画	面積(㎡)	用途地域	備考
M-1	68,676.56	工業専用地域	分譲中
□西浜地区			
区画	面積(㎡)	用途地域	備考
M-2	85,615.53	工業専用地域	分譲中
□雲雀野地区			
区画	面積(㎡)	用途地域	備考
D-1	約 83,000		造成中
D-2	約 73,000		造成中
D-3	約 131,000		造成中
F-3	44,277.80	工業専用地域	分譲中
F-7	41,583.68	工業専用地域	分譲中

宮城県の優遇制度	
○みやぎ企業立地奨励金	
○宮城県工業立地推進金融融資制度	
○原子力発電施設等周辺地域企業立地支援事業補助金	
○民間投資促進特区の優遇制度 等	

石巻市の優遇制度	東松島市の優遇制度
○企業立地助成金	○企業立地促進奨励金
○上水道料金助成金	○工業用地確保補助金
○緑化推進助成金 等	○環境整備促進補助金

※この他にも優遇制度がありますので、下記に問い合わせ下さい。

問い合わせ先	
宮城県経済商工観光部 産業立地推進課	TEL 022-211-2732
石巻市産業部産業推進課	TEL 0225-95-1111
東松島市産業部商工観光課	TEL 0225-82-1111

職場研修を実施

■「富山県の土木行政について」の紹介がありました。

平成28年12月15日（木）、職場全体会議を開催しました。今回は震災復興の支援のために富山県から派遣されている浅地技術主査による発表があり、「富山県の土木行政について」を聴講しました。

特に、伏木富山港の新湊地区には中央径間360mに達する傾張橋「新湊大橋」があり、石巻港での橋梁建設の参考となるものが、すでに建設されていました。

また、県民との協働事業として、「雪と汗のひとかき運動」がなされており、主要交差点やバス停等に県がスコップを設置し、地域住民にひとかき除雪をしてもらうなどの取り組みがなされているとのことです。

知る機会の少ない他県の状況を聴く良い機会となりました。

災害査定受検

■平成28年災の災害査定が実施されました

平成29年1月10日（火）から13日（金）にかけて、平成28年発生災害査定が行われました。

今回の査定対象は、8月に発生した台風10号による被災箇所、石巻港内の東浜並びに西浜の離岸堤12箇所です。

今後は、全箇所の平成29年度内の工事完成を目指します。

■石巻港区平面図



被災原因：平成28年8月29日から30日にかけての台風10号により、消波ブロックが流出したもの。

査定箇所：東浜離岸堤
1～5号堤 5箇所
西浜離岸堤
1～7号堤 7箇所
計 12箇所

被災総額：約20億円

新素材量産設備本格稼働

日本製紙株式会社石巻工場は、セルロースナノファイバーの量産化設備を平成29年4月に本格稼働させる予定です。

石巻発の新素材が世界各地で利活用されることが今後期待されます。

セルロースナノファイバーとは：

木材パルプ等をナノレベルまで細かく解繊したもので、軽くて強いなどの特性から、自動車の部品などに使えるほか、化粧品や食品への添加物としても使える多用途な次世代の素材。



日本製紙の実証生産設備でつくられたセルロースナノファイバー分散液

新規職員の紹介

11月1日付けで、任期付き職員として清水さんが着任しました。ゼネコンなどで培った経験を宮城の復興に役立てたいとして、愛する家族を八戸においたまま、宮城県に入庁いただきました。

職員一同、今後のご活躍を期待しています。



編集後記

あけましておめでとうございます。

昨年に引き続き、本年もよろしくお祈いします。

今年は、リボンアートフェスティバルの本格開催や、新素材プラントの稼働など、また新たな一年になりそうです。復旧・復興工事も安全第一で、一日でも早い完成に向けて取り組んでまいります。

編集事務局

宮城県石巻港湾事務所

〒986-0845 石巻市中島町17-2

電話:0225-95-6271

FAX:0225-95-6273

E-MAIL:iskown@pref.miyagi.jp

<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/is-kouwan/>